**平成２９年度大阪府がん対策推進委員会**

**小児がん部会（概要）**

１．日　時：平成29年７月２８日（金）午後6時～

２．場　所：大阪国際がんセンター　小会議室３

３．議　事：（1）第３期大阪府がん対策推進計画（素案）について

（2）その他

４．委員からの意見要旨

（1）第3期大阪府がん対策推進計画（素案）について

　　　　　　　①計画全体について

　　　 　　　　○計画全体において大阪の特色はあるのか。

　　　　　　　②がん医療の充実（小児・AYA世代のがん）について

　　　　　　　 ○小児・AYA世代のがん全体の5年生存率は向上しており、大変喜ばしいことである。しかし治療成績を考える場合、がん患者・がんサバイバーの生活の質も考慮しなければならない。

　 ○40歳以上の末期がん患者には介護保険を適応できるが、39歳以下の人

には活用できない。経済的な部分で家族が苦労している。

　 ○長期フォローアップには費用が掛かる。経済的な支援が必要である。

　 ○在宅緩和ケアマップを作成する場合、その施設のクオリティーを評価す

ることが大切である。

○がんの発症から確定診断までに要した時間がわかれば、小児がん医療の整備がどれくらいなされているかという重要な指標になるのではないか。

　　　 ○がん登録のみでは発症から確定診断までの時間を把握するのは難しい。医療機関へのアンケートができればよいが。

③患者支援の充実（小児・AYA世代への支援）について

　　　 　　　　○入院中の教育支援について充実とあるが、入院中の義務教育を担っている支援学校に対する具体的な取り組みが今後行われる可能性はあるのか。

　　　 ○就学・就労支援への取り組みを推進するためには長期フォローアップをしっかりと実施していくべきである。長期フォローアップの定義づけが必要である。

　　　 ○就労に関して、患者の実態把握はなされているのか。実態把握されていないのであれば今後の課題である。

　　　 ○高校や大学の就職担当の方から、患者をどうサポートしていけばいいかと相談を受けることがある。行政において高校や大学の就職担当と連携し、サポートしていけるようにできればよい。

　　　 ○就労支援を行う場合、中学・高校などの早期の段階から取り組むべきである。

　　　 ○行政には様々なサポートを実施しているが、府民に知られていないことが多いため、より一層の情報提供に努める必要がある。

　　　 ○AYA世代については年齢階級に応じた対応が必要であるが、30代になってくると成人診療科領域のがんが加わってくるため、成人診療科との連携体制が必要である。

　　　 ○妊孕性についての記載を追加することは可能か。

　　　 ○がん教育を行う講師にも小児がんについての理解を深めて欲しい。

○患者満足度調査を実施するのはどうか。

（2）その他

特になし